

中日間の越境するサブカルチャー

周 星



日中間の共有する萌え、美意識についてお話ししたいと思います。

みなさん、よくご存じかとは思いますが、中国は自前の漫画文化があり、20世紀の50年

代以来、社会主義体制の中で徐々に独特な漫画文化が形成され、自分なりの成果を成し遂げています。そして80年代に入ってから、日本からアニメーション文化がどんどん中国に入ってきたのです。かつては中国の漫画文化の中で作り出されたキャラクターの特徴、キャラクターのそのほとんどは、イデオロギーの影響があり、また、階級闘争のための大人社会のイデオロギーに基づいて子供たちのために作ったキャラクターが一般的でした。それに対して日本側のアニメーションのキャラクターは、子供たちの成長の心理や子供たちの趣味に合うようなキャラクターであり、少し性質が異なっているものがどんどん入ってきたわけです。それは中国アニメの固有のものを補う形になっているかと思われます。それによってブームになり、今40代の人たちのほとんどが、子供時代に日本のアニメを見て成長してきたと言えるかと思います。

また、日本のアニメーション文化が中国に入った二つの道があります。一つは合法的、つまり公式的な知的財産権を踏まえて国が、あるいは会社がしっかり中国に導入し、翻訳されて出版されたものであります。それらは政府が経営しているテレビ番組に流されたのです。もう一つの経路として、非合法的な海

賊版が非常に多くあります。海賊版と正規版の相互影響のもと、日本のアニメファンを中心とするサブカルチャーを汲み入れて、中国のサブカルチャーも発展してきたわけです。それで言いたいことは、中国マーケットに入ってくる日本のアニメは、海賊版というものですが、実は香港、台湾経由のものがほとんどであるということです。最近是中国大陸の字幕組、ファンサブという組織のようなものが増えています。基本としては簡体字と繁体字二つのパターンがあり、これは違法と言われますが、利益を狙ってやっているわけではなく、ただ好きということで、今までは中国側も日本側もかれらを大きな問題として見なしてきませんでした。ごく最近、日本の警察が動き出し、日本のアニメ番組に字幕を勝手につけて、中国語のインターネットにアップする人が逮捕されたというようなニュースが流されていますが、中国国内の社会においては知的財産の認識がまだ薄く、今まではそのような形で中国本土に入ってきたたくさんの作品が海賊版だったというわけです。これはもちろんよくないことですが、逆にいえば、中国の若者文化が日本の影響を受けているという事実の証しでもあります。イギリス発のカルチャースタディーズという分野の中ではそういった先進国の文化が途上国に入ってくる事実に対する解釈の一つとして、文化帝国主義や「文化侵略」といった過激な理論がありますが、この理論は日中間の越境するサブカルチャーに関しは、相応しくないと考えられます。その理由は、受け入れる側が海賊版という形にしてまで受け入れようとしているこ

とであり、これは決して日本が押し付けていることではないからです。これは一つの大きな特徴と言えるかと思います。

中国では最近、インターネットを中心に、たくさんのサブカルチャーのグループができました。正確な数がどれほどあるかよくわかりませんが、その中に大学生のグループがあります。台湾人の言い方ですが、ACGという略語があり、Aはアニメ、Cは漫画、Gはテレビゲームという略称になりますが、それら大学生の中で趣味といった形で動いているサブカルチャーグループがどんどん増えています。その活動の在り方は、同人活動で、日本とほぼ変わりはありませんが、中国の若者は日本のアニメ作品を抵抗なく、そのまま受け入れます。そして、翻訳や字幕をつけていますが、つけていない作品もたくさん出まわっており、そのまま日本の漢字が中国人のことばの世界に入ってくるのです。共通する漢字というものですが、まさに大きなパワーを持っており、共通する財産といえるかと思われるます。

日中間の越境するコスプレもほとんど同じく香港、台湾経由で入ってきましたが、三つの理由から大幅に発展してきたわけです。一つはインターネットです。インターネットを利用して数多くのグループが活躍しております。もう一つは中国政府のサポート体制です。中国政府は、これらのサブカルチャーを子供たち、青少年に向けた文化として重視し、すべてをアメリカ、日本のアニメ文化に占領されるのではなく、むしろ中国国産のものも作っていききたいという思いがあります。博覧会やイベントを開催し、コスプレをイベントの在り方として大いに取り上げてきています。それから、政府部門の重視だけではなく、マーケットの力もあり、コスプレのグループは広告会社のような形でどんどん成長し、増えてきました。宣伝活動あるいはイベントの中

で登場するコスプレは人を集め、注目を浴びます。三つ目の理由は日中間共通の萌えという美意識にあります。これは確かに日本からの影響を受けましたが、ただ、「萌」という漢字も中国語にもある上、「萌」ないしは、かわいいという美意識がそもそも人類に共通する普遍的な美意識の一つではないかと思われれます。これは中国側にもあることですが、ただ、日本のアニメ、ACGの文化を受け入れながら、さらに大きくなったり、増幅したり、より社会の中での影響力が拡大していることは間違いない事実です。少し日本と違うのは、中国の「かわいい」文化はあくまでもある年齢までです。その年齢をオーバーすると逆効果が出てきます。これは日本とはやや違います。日本社会では「かわいい」文化が徹底的に浸透しています。この点で両者は少し違うかとは思いますが。

以上のように日中間で共通するサブカルチャーについては、日本側の影響を受け入れながらも、中国自前のもも次々と生成されていることを指摘したいと思います。結論としては若者の日本観、日本に対する見方は、「反日」か「哈日」かのどちらかがメディアに取り上げられがちですが、その極端な反日と極端な親日は中国人の、特に若者たちの日本に対する考え方、見方が如実に反映されていないと思います。今後はこの二つの極端な見方、考え方をどのように乗り越えられるかについて考えていきたいと思っています。より一般的な若者文化の中で、日中間に共有できる文化、サブカルチャーというカテゴリーから、模索していきたいと感じます。たくさんの可能性がまだまだあるかと思えます。

私の話は以上です。